

13

豊橋

中部中学校

こいけ ひりゅう
小池 飛竜

分科会番号

3

分科会名

社会科教育（中学校）

社会的事象を多面的・多角的に考察し、

よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができる生徒の育成

—中学2年社会科「僕らのヒストリーアカデミア～転生したら松平信古だった件～」の実践を通して—

1 研究要項

(1) 研究主題の捉え

「多面的」・「多角的」

「多面的」とは、倒幕派と佐幕派に関する政治面、戦い・外交面、経済・文化面をさまざまな項目で見たり、関連させて考察したりすることができる姿とする。

「多角的」とは、社会的事象を倒幕派と佐幕派の両者の立場から見た上で考察し、両者の考えを認めたり、自分ならどちらにつくかという為政者としての判断を深く考察したりすることができる姿とする。

よりよい社会づくり

「よりよい社会づくり」とは、為政者として判断したことを通して、自分のことだけでなく、さまざまな立場の人のことを考えられることだと捉える。

(2) めざす生徒像

社会的事象を多面的・多角的に考察し、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができる生徒

(3) 研究の仮説とてだて

幕末の動乱期の為政者の判断について、吉田藩主の松平信古の視点で考察する学習の中で、ゲストティーチャーと関わる場を設けたり、自分の考えを整理し、立場を明らかにして他者と考えを交流する場面を設けたりすることで、社会的事象を多面的・多角的に考察し、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができる生徒が育つだろう。

【てだて1】ゲストティーチャーの歴史学者のK先生との関わりの場の設定

吉田藩研究の専門家である歴史学者のK先生との関わりの場を設定する。戊辰戦争に勝利した倒幕派だけでなく佐幕派のよさに気づくことができるように、K先生と藩主の立場や時代背景について事前打ち合わせをする。譜代大名かつ吉田藩主としてどちらにつくか揺れる松平信古の立場や吉田藩の民衆の状況について、K先生に話をしてもらうことで、どちらにつくべきだったのか問題意識を強め、為政者として考えたいと気持ちを高めることができる考えた。また、意図的に指名し、吉田藩について調べてもわからないことを質問したり、K先生に考えを伝えたりすることで、専門家の知識を交えながら多面的・多角的に考察し、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができる考えた。

【てだて2】自分の考えを整理し、立場を明らかにする場の設定

(以下、ソーシャルジャッジとして表記する)

ソーシャルジャッジとは、「吉田藩主の松平信古として倒幕派と佐幕派のどちらにつくか」という問いに対し、自分の立場を明らかにして、考えをまとめる活動である。ワークシートを工夫し、「絶対倒幕派」「やや倒幕派」「やや佐幕派」「絶対佐幕派」の4つの選択肢を設ける。また、「政治面」「戦い・外交面」「経済・文化面」の3つの項目を5段階評価することで、複数の事象を関連させ、倒幕派と佐幕派に関わる人物の立場を踏まえて、多面的・多角的に考察し、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができる考えた。

【てだて3】立場や視点を示しながら調べたことを共有する話し合いの場の工夫

(以下、ヒストリーアピール会議として表記する)

教室の座席を倒幕派と佐幕派に分け、自分がつきたい方をアピールする話し合いの場を設定する。また、「政治面」「戦い・外交面」「経済・文化面」の3つの項目ごとに話し合いを進めながら、意図的に指名したり項目ごとに板書を整理したりしていくことで、多面的に複数の項目を関連させたり、違う立場の人の意見を聞いて多角的に考察したりして、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができる考えた。

(4) 研究単元の設定理由

本学級は、歴史に苦手意識がある生徒が多いという現状がある。事前アンケートの、「歴史が得意ですか」の質問に対して、不得意だと答えた生徒が44%と多い。「さまざまな立場の人が多く、1つの立場のことは考えられない」「さまざまな面や立場を関連して考えるのが難しい」などの記述が見られた。前単元の「産業の発達と幕府政治の動き」では、「江戸中期の3人のリーダーで最も優秀なのは誰だろう」という発問をした。政治面や経済面を個別に捉え、1つの項目で記述する生徒が66%もいた。また、商人などの1つの立場の人の利益だけで、このリーダーが最も優秀だと判断する生徒が61%もいた。そこで、本研究では、吉田藩主の松平信古の視点をもとに、変革に大きな影響を与えた開国をきっかけとした倒幕を扱う。松平信古は、吉田藩主かつ譜代大名としての立場がありながら戊辰戦争時に、最終的に倒幕派について人物である。倒幕派か佐幕派のどちらについてくべきなのかという為政者としての葛藤に気づき、その判断を複数の項目から両者の差異やそれらに関わるさまざまな人物の関連性について、両者の立場から見ることで為政者の判断や武家政権の崩壊について多面的・多角的に考察することができる。そして、過去の為政者の判断について考察することで、さまざまな立場の人のことを考えて判断することの大切さに気づき、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができると考えた。

2 研究計画

(1) 仮説の検証方法

仮説の有効性を検証するために、抽出生徒として生徒Aを設定し、実践を通して変容を捉えていく。

生徒Aは、自分の意見をしっかりと文章で書き、自信をもって発言することができる。前単元のまとめを見ると、政治面と経済面についてそれぞれふれてあるが、関連づけて記述する姿は見られず、一面的になっていた。また、幕府のことだけに注目し、さまざまな立場の人のことを考えて判断していなかった。本研究を通じて、松平信古の政治判断について倒幕派と佐幕派に注目し、政治面や経済・文化面など複数の面を関連づけて多面的に考察することができたり、反対側の立場からも、多角的に考察したりすることができるようになってほしい。また、よりよい社会づくりに向けて考えを深めて、さまざまな立場の人のことを考えることができるようになってほしい。

(2) 単元構想 (全10時間)

● 豊後、譜代大名の土地なのに、なぜええじゃないかは始まったのだろう。

なぜ豊後でええじゃないかは起こったのだろう①② (一人調べ)

江戸時代の豊後はどんな状況だったのかな③ (話し合い) 【てでて1】 【てでて2】

● 松平信古の豊後について知り、松平信古の判断に問題意識を強めることができるように、譜代大名や吉田藩主として振るる松平信古の立場について歴史学者の久住先生に話をしてもらおう。④

● 話し合いで出てきた知識をもとに情報を整理したり、自分の立場を決めたりするために、吉田藩主の松平信古に「転生」したと仮定して当時の判断を問う自己選択や自己決定をする場 (ソーシャルジャッジ) を設定する。また、自身の考えを視覚的に捉えることができるように絶対倒幕派、やや倒幕派、やや佐幕派、絶対佐幕派の4つの選択肢と政治面、戦い・外交面、経済面・文化面の3つの視点ごとに5段階評価をする。⑤⑥⑦

● 吉田藩について自作資料では、わからないことを再度直接質問できるように歴史学者の久住先生と teams でつなぐ。⑧⑨

● 自分が調べたことだけでなく、友達と調べたことにも目を向け、倒幕派と佐幕派から政治面・経済面などの視点を多面的・多角的に考えることができるように松平信古の判断について自分の立場を決めて、視点をともに話し合うことができる「ヒストリーアール会議」の場を設定する。⑩⑪

● 藩主だけでなく、民衆や藩士、家臣などさまざまな立場の人が生きていく社会にするために、為政者はどう判断すべきかについての考えを深めるために、松平信古の政治判断についての自分たちの考えを歴史学者の久住先生に伝え、議論してもらおう場を設定する。⑫

① 吉田藩主は、時習館を設置し、教育を普及したり、南山大池を作ったりして豊後を発展させた。● 松平信古 (ええじゃないかの時の藩主) ● 松平信古は、幕府から開国の意見を求められて日本を守るために開国は仕方ないとして判断した。● 民衆が若し、白化餅や奇装、松平信古が、戊辰戦争時に倒幕派か佐幕派かを悩み、倒幕派についたんだ。

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

① 吉田藩主の松平信古に「転生」。倒幕派か佐幕派のどちらにつくべきかな

● 信古は、藩士の立場で振るる上では倒幕派につく判断をしたけど、信古の判断は正しかったのかな。

● 倒幕派 ● 佐幕派 ● 松平信古はなぞ開国に賛成なのかな

④⑤ (一人調べ・歴史学者への質問) 【てでて1】

⑥ (第1回ヒストリーアール会議・話し合い) 【てでて2】 【てでて3】

● 倒幕派 ● 佐幕派 ● 松平信古はなぞ開国に賛成なのかな

⑦ ⑧ (一人調べ・歴史学者への質問) 【てでて1】

⑨ (第2回ヒストリーアール会議・話し合い) 【てでて2】 【てでて3】

● 倒幕派 ● 佐幕派 ● 松平信古はなぞ開国に賛成なのかな

⑩ ⑪ (一人調べ・歴史学者への質問) 【てでて1】

⑫ (第3回ヒストリーアール会議・話し合い) 【てでて2】 【てでて3】

● 松平信古に「転生」して考えたことを久住先生に伝えたいな

⑬ (専門家の講評) 【てでて1】

● 政治を行う人やリーダーは、葛藤しながら判断してきたことがわかった。また、さまざまな立場になって考えて判断することが重要だとわかった。歴史から学び、今に生かせるように政治に関心をもつことが大切でした。

3 研究の実際と考察

(1)(2) なぜ豊橋でええじゃないかは起こったのだろう

第1時では、譜代大名の治める吉田藩で時代の変革を願う、ええじゃないかが起こった矛盾について問うた。生徒Aは、ええじゃないかが起こった理由を「吉田藩中心の世の中にしたいから」と記述した。吉田藩主は、譜代大名でありながら幕府を裏切って吉田藩中心の世の中にしようとしていたのではないかと考察していたことがわかる。

第2時では、なぜ豊橋でええじゃないかが起こったのか知りたい気持ちから一人調べを行った。生徒Aは、教師の自作資料から、ええじゃないかが起こった時の吉田藩主の松平信古に注目した。松平信古は幕府の重要な役職につき、権力があつたことに気づいた。そして、「なぜええじゃないかが起こったのかさらになぜが深まりました」と記述が見られた。

(3) 江戸時代の豊橋はどんな状況だったのかな

第3時では、ええじゃないかが起こった吉田藩について知りたいという思いから、話し合いをした。生徒Aが、「開国後に田原に防塁を築いた」と発言したことをきっかけにして生徒B、Cが発言した【資料1】。生徒B、Cの発言によって生徒Aが松平信古の葛藤や判断に気づくきっかけになった。そこで、さらに問題意識を強めることができるように、譜代大名や吉田藩主として揺れる松平信古の立場について、吉田藩の専門家である歴史学者のK先生に話をしてもらう場を設定した(てだて1)。

生徒Aの「意見交流では、農民などに厳しい政策をしている」と記述が見られた【資料2】。生徒Aは、K先生の話を聞いたことで、「領民にしたわれている」と記述していた。松平信古が領民に学習の支援をしたことで、領民に慕われていたことに気づき、経済・文化面の記述が見られた。松平信古を多面的に考察するきっかけになったことがわかる。そして、領民についての記述が見られるため、さまざまな立場の人のことを考え始めていることがわかる。

【資料1】授業記録(第3時)

- A:ペリー来航の開国後に田原に防塁を築いたよ。
B:松平信古は、幕府から開国に対して意見を求められた時に迷いながら消極的開国であったよ。
C:松平信古は、戊辰戦争時に倒幕派か佐幕派を迷い、藩の考えを統一できずにいて、なぜか最終的に倒幕派についたよ。

【資料2】振り返りの一部(第3時)

意見交流では、農民などに厳しい政策をしていると書いていたけど、領民にしたわれていることがわかりました。

【資料3】生徒Aの第1回ソーシャルジャッジ(第3時)

Q1 国目のソーシャルジャッジ あなたが吉田藩主の松平信古として、転生(タイムスリップ)したら倒幕派か佐幕派のどちらにつくのか選び、理由を書こう。また自分が選んだ側の視点を5段階評価し、塗ろう(7分)

<倒幕派・新政府>		<佐幕派・旧幕府>	
政治	戦い・外交	政治	戦い・外交
経済・文化	経済・文化	経済・文化	経済・文化
絶対倒幕派	やや倒幕派	やや佐幕派	絶対佐幕派

理由
 戦っても勝てないし、ヨーロッパの方が進んでいるから倒幕したほうがいい...と思いました。
 しかも、吉田藩は外国船をもたたく人だとして、幕府に批判されて、おろされそう。
 ② 幕府は幕府にも外国にもおどされて、かわいそう。
 吉田藩は幕府にも外国にもおどされて、かわいそう... 幕府は幕府にも外国にもおどされて、かわいそう。

- 政治面
 戦い・外交面
 ——— 経済・文化面
 --- さまざまな立場の人

そして第1回ソーシャルジャッジを行い、自分の立場を明らかにした(てだて2)【資料3】。生徒Aは、「やや倒幕派」だと考察し、「戦っても勝てないし、ヨーロッパの方が進んでいる」「松平は、えらい役職をもらっているから、裏切ったらこわそう」と記述していた。政治面を1と評価しているところから、幕府に信頼されていることを考察していることがわかる。また、戊辰戦争は、倒幕派が勝利したことや幕府の鎖国によって発展が遅れていることから考察している一方で、幕府の信頼を裏切ることに抵抗を感じていることがわかる。さらに「吉田藩は幕府にも外国にもおどされて、かわいそう」と記述していた。吉田藩主として、自分のこと以外にも開国に関する吉田藩の影響について考察していることがわかる。そして、資料3の記述から、政治面と戦い・外交面に注目していることがわかる。

(4)(5)(6) 松平信古はなぜ開国に賛成したのかな

第4時では、前時の疑問を解決するために、松平信古がなぜ開国したのかを調べた。倒幕派は、幕府を批判するため開国と鎖国の悪い面に注目し、佐幕派は、よい面に注目して一人調べをした。第4時の生徒Aの振り返りでは、「吉田藩は条約や開国、貿易に関わっていたのか」と記述が見られた。開国の悪い面は、関税自主権がなく、物価上昇したことにも気づき、経済・

【資料4】生徒Aが、K先生に質問をしている様子(第5時)



文化面に注目していた。

第5時では、吉田藩についてわからないことを直接質問できるようにK先生とオンラインで交流することにした(てだて1)。生徒Aを意図的に指名し、生徒Aは、K先生に吉田藩と開国の関係について質問した【資料4】。「明治の時には、花火を輸出していた」ことを知った。「開国するのは一見いいことかもしれないけど」という記述から、生徒Aは倒幕派だが、K先生に質問したことで、吉田藩にとって幕府の行った開国はよいところもあるという多角的な考察につながったことがわかる。

第6時では、「世の中を悪い方に引っぱっていることをアピールしたい」という生徒Aの思いを取り上げた。調べ学習で得た知識をもとに、開国と鎖国の視点で倒幕派と佐幕派のつきたい方のよさを伝えるヒストリーアピール会議をした(てだて3)。3つの項目を設定して話し合ったことで、倒幕派と佐幕派を比較したり、同じ項目で反対側の意見を踏まえた上で自分がつきたい方をアピールしたりする姿が見られた。開国の悪い面での経済・文化面の項目の時に生徒Aは、「関税自主権がないことで、…経済が混乱をした」と発言していた【資料5】。生徒Aの発言をきっかけにして倒幕派の生徒D、E、Fが開国の悪い面をアピールした。開国のよい面に気づくことができるように佐幕派の生徒Gを意図的に指名し、生徒Gは「開国によって文化交流が起こり、経済成長した」と発言した。今まで倒幕派の生徒Aは、開国の悪い面を中心に注目していたが、佐幕派の意見によって「佐幕派の意見を聞いて、開国をして経済成長させたかったのかな」と記述していた【資料6】。

【資料5】ヒストリーアピール会議の授業記録(第6時)

- A**：貿易をする時に、関税自主権がないことで、外国の物が大量に入ってきて経済が混乱した。
D：さらに金銀の交換の比率が外国と異なっていて、金が流出したことも経済混乱につながったよ。
E：経済混乱の理由は最初に輸出が多く、途中から輸入が多くなり、貿易のバランスが悪くなった。
F：輸出によって品不足になったことで、民衆の生活が苦しくなり、尊王攘夷運動へとつながった。
T：Gさんは、開国のよい面に注目していたよね。Gさん、みんなに教えてくれるかな。
G：開国によってヨーロッパと文化交流が起こり、経済成長したよ。※**A・D・E・F**：倒幕派 **G**：佐幕派

ヒストリーアピール会議をしたことで、開国の経済面について多角的に考察することができたことがわかる。また、「政治面や戦い面についてあまり調べていなかったの、貿易や開国をすると外国に有利になったり幕府の権力が弱くなることが分かりました。」と記述が見られた。この記述から、他の項目を理解する多面的な考察につながったことがわかる。

その後第2回ソーシャルジャッジを行い、生徒Aは、「絶対倒幕派」を選び、1回目から変容していることがわかる(てだて2)【資料7】1回目の時は、政治面と戦い・外交面の記述が中心であった。経済・文化面などの記述が増え、全ての視点についての記述が見られたため、多面的に考察することにつながったことがわかる。また、5段階評価では政治面が1つ増え、2と評価していた。戦い・外交面が1つ減り、3と評価しているため、より多面的に考察していることがわかる。そして、「領民もええじゃないかを起こして…佐幕派になったら、領民から反感をかってしまう」と記述が見られた。藩主として、よりよい社会に向けて領民のことを考えて判断していることがわかる。

(7)(8)(9)

吉田藩主の松平信古に「転生」したら倒幕派か佐幕派かのどちらにつくべきかな

第7時では、「佐幕はなぜやろうとしているのか知りたい」という生徒Aの記述を取り上げて、倒幕派と佐幕派について教師の自作資料を中心に一人調べを行った【資料6】。第7時の生徒Aの振り返りでは、「なぜ吉田藩は、百姓一揆がおきなかったか」と記述が見られ

【資料6】生徒Aの振り返り(第6時)

「はあ、政治面や戦い面について調べていなかったの、貿易や開国をするとか、幕府の権力が弱くなることが分かりました。松平信古は、倒幕派に選んでよかった。佐幕派の人たちや松平はえらい立場と言っていたけど、幕府が弱くなっているのにえらい立場だ。めんどくさいけど、外国に有利に付いて幕府がより強くなっているから倒幕派にしたい。佐幕はなぜやろうとしているのか知りたいです」

【資料7】生徒Aの第2回ソーシャルジャッジ(第6時)

<倒幕派・新政府>		政治	戦い・外交	経済・文化	<佐幕派・旧幕府>		政治	戦い・外交	経済・文化
絶対倒幕派	やや倒幕派	やや佐幕派	絶対佐幕派						

理由
③ 今度もええじゃないかを起こして佐幕派の人たちや松平はえらい立場と言っていたけど、幕府が弱くなっているのにえらい立場だ。めんどくさいけど、外国に有利に付いて幕府がより強くなっているから倒幕派にしたい。佐幕はなぜやろうとしているのか知りたいです

た。調べ学習では、吉田藩でも打ちこわしが起こっていることに気づいたため、第3時のK先生の「吉田藩では百姓一揆は起きていない」という話に疑問をもっていた。

第8時では、この疑問を解決するため、再度K先生とオンラインで交流することにした(てだて1)。生徒Aは、自分の疑問について質問した。生徒Aは、K先生の話聞き、吉田藩は米作りが盛んで百姓一揆は起こっていないが、打ちこわしは起こっていたことに気づいた。また、倒幕派の生徒Hが、K先生に欧米と倒幕派の藩の関係についての質問を聞いて、生徒Aは、戦い・外交面の倒幕派の他の藩に注目する多面的な考察につながった【資料8】。第8時の振り返りでは、生徒Aは、「打ちこわしがあるというところや他の藩が強くなっているところをアピールしたい」と記述していた。K先生と再度交流したことで、戦い・外交面についてもアピールしようとしていることがわかる。

【資料8】生徒Aの振り返り(第8時)

幕府はだんだん弱ってきていて、他の藩が強くなり、社会不安がおこっていることがわかりました。だんだん弱まっている幕府につくより、米作りが盛んである倒幕派について調べて見たいです。くさね藩の倒幕一揆は吉田藩内でおこっていないと、いってあげ、打ちこわしがあるというところや他の藩が強くなっているところをアピールしたいです。

第9時では、反対側の人にアピールしたいという思いから、第2回ヒストリーアピール会議の場を設定した(てだて3。)政治面の話し合いの時に、生徒Aは、先を見据えて判断するなら倒幕派だと発言した【資料9】。しかし、佐幕派の生徒Iの発言によって、倒幕派だと今までの実績がなくなることや参勤交代で妻子が人質になっているという佐幕派のよい面にも気づくことができた。政治面で佐幕派に立場を変えて見ることで見方が変わること気づき、佐幕派の考察を認める多角的な姿が見られた。また、生徒Aは今まで民衆のために倒幕することがよいと考察していたが経済・文化面での話し合いの時に、佐幕派の生徒Kを意図的に指名したことで、民衆のためにならないことに気づき、多角的な考察につながった。よりよい社会に向けて、民衆のためにどう判断するべきか考えを深めることにつながったことがわかる。

【資料9】第2回ヒストリーアピール会議の授業記録(第9時)

- A: 開国後に幕府は、弱まっているし、先を見据えて判断するなら倒幕派につくべきだよ。
 I: 倒幕派だと今までの実績がなくなること、参勤交代で妻子が人質になっているから佐幕派につくべきだな。
 J: 開国後の幕府の貿易によって、経済が混乱し、庶民が苦しんでいたから倒幕をするべきだな。
 A: 今の物価上昇と同じくらいで米が5kgで3500円だったから庶民が苦しんでいたよ。米作りが盛んだったから百姓一揆は起こっていないけど、打ちこわしは起こっていたよ。
 T: Kさんは、佐幕派だけど百姓一揆に注目していたよね。Kさんみんなに教えてくれるかな。
 K: 倒幕後に百姓一揆が増加したよ。庶民のことを考えるなら倒幕しても庶民は納得してないよ。
 ※A・J: 倒幕派 I・K: 佐幕派

その後第3回ソーシャルジャッジを行ったところ、生徒Aは、「やや倒幕派」に立場が変わった(てだて2)【資料10】。一人調べで気づいた「物価が上昇したり、米の価格があがる」という倒幕派をアピールするだけでなく、「実績がなくなったり、吉田藩主じゃなくなってしまう」「倒幕しても一揆がなくなるなど、今まで見られなかった佐幕派を認める姿勢が見られた。「実績はないけど戦力はある」という記述と戦い・外交面の5段階評価で、前回から1つ増えて、4と評価していることは政治面と関連づけて多面的に考察していることがわかる。倒幕派と佐幕派の両方の意見をもとに冷静に考え、多角的な考察の深まりが見られる。そして、今までは、「領民」のことを考察している記述が見られたが、新たに「部下」の記述が見られるため、全ての項目から多面的に考察したり、倒幕派と佐幕派の意見を関連させて考察したりすることができるようになっており、さまざまな立場の人のことを考察することができるようになってきたことがわかる。

(10) 松平信古に「転生」して考えたことをK先生に伝えたいな

第10時では、考えをK先生に伝えたいという思いから、再度K先生と関わる場を設定した(てだて1)。倒幕派の生徒Lの「家臣を置いていくリーダーにつきたくない」という発言によって、生徒Aは、「徳川家の家臣を置いていくようなリーダーにならないようにしたい」と記述していた【資料11】。藩主として「家臣」への考えを深めていることがわか

【資料10】生徒Aの第3回ソーシャルジャッジ(第9時)

倒幕派・幕府・経済・文化		佐幕派・幕府・政治・戦い・外交	
絶対倒幕派	やや倒幕派	やや佐幕派	絶対佐幕派

理由
 幕府はだんだん弱ってきていて、他の藩が強くなり、社会不安がおこっていることがわかりました。だんだん弱まっている幕府につくより、米作りが盛んである倒幕派について調べて見たいです。くさね藩の倒幕一揆は吉田藩内でおこっていないと、いってあげ、打ちこわしがあるというところや他の藩が強くなっているところをアピールしたいです。

る。また、K先生の「藩主の判断は、領民や藩への影響が大きい」という話からは生徒Aが、「物事の判断は、先をみすえてしっかりと考えて決めたい」「日本の未来のために努力している人がある」などと記述していた。K先生や友人との交流をしたり、先を見据えて判断した過去の為政者の判断にふれたりすることで、多面的・多角的に考察し、よりよい社会づくりに向けて考えを深めていることがわかる。

4 研究のまとめ

(1) 仮説の検証とてだての有効性

【てだて1】ゲストティーチャーの歴史学者のK先生との関わりの場の設定

第3時では、生徒Aは、K先生的話から、松平信古が幕府に信頼され、領民にも慕われていたことを知り、多面的に考察するきっかけになった。また、領民に関する記述から、さまざまな立場の人のことを考え始めたことがわかる【資料2】。

第5時では、生徒Aは、開国と吉田藩の関係を質問したことで、開国のよい面に気づき、開国について多角的に考察する姿が見られた。

第8時では、「打ちこわし」や「他の藩が強くなっている」という記述から、K先生に質問し、戦い・外交面についても多面的に考察する姿が見られた【資料8】。

第10時では、K先生的話から、「物事の判断は、先をみすえてしっかりと考えて決めたい」と記述した【資料11】。

以上のことからてだて1は有効であったと考える。

【てだて2】自分の考えを整理し、立場を明らかにする場の設定

第3時の生徒Aは、「やや倒幕派」と答えた【資料3】。「戦っても勝てない」「松平は幕府にしんらいされてる」という記述から政治面と戦い・外交面の視点に着目していた。

第6時では、「絶対倒幕派」に変わった【資料7】。2回目では、全て項目にふれており、多面的に考察していることがわかる。5段階評価では政治面が1つ増え、戦い・外交面が1つ減っており、多面的に考察していることがわかる。また、「領民」の記述から、さまざまな立場の人に注目して、考察していることがわかる。

第9時では、「やや倒幕派」に変わった【資料10】。経済・文化面以外に佐幕派を認める姿勢が見られた。戦い・外交面の5段階評価でも、1つ増えていることから、政治面と関連づけて多面的に考察している。また、「領民」以外に「部下」についての記述から、さまざまな立場の人のことを考える姿が見られた。

以上のことからてだて2は有効であったと考える。

【てだて3】立場や視点を示しながら調べたことを共有する話し合いの場の工夫

第6時では、生徒Aは、開国の悪い面を中心に注目していたが、生徒Gの発言で、開国の経済面のよい面に気づき、多角的に考察することができた【資料5】。調べていなかった政治面や戦い面の記述から、他の項目を理解する多面的な考察につながったことがわかる【資料6】。

第9時では、政治面の話し合いの時に、生徒Aは、先を見据えて判断することについて、佐幕派に立場が変わると見方が変わること気づき、佐幕派の考察を認める多角的な姿が見られた。民衆のために倒幕することがよいと考察していたが、経済・文化面の話し合いの時に、生徒Kの発言によって、民衆のためにならないことに気づき、よりよい社会づくりに向けて、民衆のために考えを深めていた。

以上のことからてだて3は有効であったと考える。

そして以上のことから、仮説は妥当であったと言える。

(2) 研究の成果と今後の課題

単元を通して考えを整理し、自分の立場を決めて友人やK先生と交流することで社会的事象を多面的・多角的に考察し、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができるようになったことが検証できた。そこで、単元終了後でも多面的・多角的に考察し、よりよい社会づくりに向けて考えを深めることができるようになってきているかを検証するために、「この単元で最も優秀なリーダーは誰だろう」と発問をした。前単元では、2つ以上の項目から書いている生徒が34%であったが、68%と増えた。また、2つ以上の立場の人に関する記述が見られる生徒は、39%であったが62%と増えた。今後の課題は、主権者教育にもつながる公民の分野を含めて、今回の成長を加速できるように、さまざまな分野での教材開発をしていくことである。

【資料11】生徒Aの振り返り（第10時）

